

建設職（建築）

〈現所属：建設部建築住宅課〉

平成 29 年度採用 建築技師

・弘前市役所を志望した理由は？

前職では住宅改修の設計など、個人の方の暮らしや住まいに関わる仕事をしていました。U ターンにあたり、今後は自分を育ててくれた弘前において、地域や人々の生活に広く貢献できる仕事がしたいと思い、市の職員として建築の仕事に関わりたいと志望しました。

・現在の自分の主な担当業務

市が所有する建築物を新築、改修、解体等をする際の、建築工事の設計と工事監理業務を行っています。工事の設計図書作成や積算、工事中の施工業者との打ち合わせ、工事が設計どおりに施工されているかの確認等が主な業務です。

・とある 1 日のおおまかなスケジュールは？

8：30	業務開始
9：00	課内打合せ、メールチェック
10：00	外勤、工事業者と打合せ
12：00	昼食、昼休み
12：45	工事関係書類の確認
15：00	設計図書の作成
17：00	業務終了、退勤

・仕事をする上で心がけていることは？

思い込みを疑うことです。これまでの思い込みで間違ったことを回答してしまうのが一番怖いので、本当にそれであるのか、いま一度法令等の確認や先輩方へ相談などを行うように心がけています。

また、1 つの工事を、建築・電気・機械の複数人で担当する場合も多いので、基本的なことですが、小さな事でも情報共有を意識して行うようにしています。

・今までの業務で印象に残っていることは？

弘前公園内の建築物の改修工事を担当したことです。

多くの市民や観光客の方に今後長く使われるものですので、これまで担当した中でも気が引き締まりました。施設を所有する課と協議を重ねながら、公園内の歴史的建造物との調和を崩さないよう改修計画をすすめ、工事が完成した際にはひと安心しました。

- ・これまでの業務で大変だったことは？

建築技師採用後1年を経過した頃に、災害後の復旧事業に係る職員派遣として1か月間他県自治体での応援業務にあたりました。

派遣先の自治体職員や、他の自治体からの応援職員の方と協力しながら、被災された方からの申請受付や書類審査等を行う多忙な1か月間ではありましたが、非常時における自治体間での業務支援の重要性や支援事業の早急な対応の必要性を実感すると共に、公務員となったことを改めて実感した期間でした。

- ・達成感や、やりがいを感じる時は？

担当したひとつひとつの工事が完了し、無事引渡しできた際には、自分の中で小さな達成感があります。

- ・弘前市の職員になって感じたこと・良かったことは？

民間時代と違い、扱う書類や手続きの多さを感じました。

工事に関する物だけでも、作成する書類・提出を受けて確認する書類など、多くの書類を扱います。公務上必要になる知識も多く、建築関係の知識向上と併せて学ばなければならないことは尽きません。

- ・弘前市職員として働くことの魅力は？

自身の民間時代もそうでしたが、建築業界はまだまだ長時間労働になりがちな業界です。市の仕事ももちろん忙しい時期や残業はありますが、福利厚生や休暇制度等は充実しているため、ワークライフバランスを整えやすい環境で仕事ができます。

- ・弘前市の「まち」としての魅力は？

市には、弘前城を始めとする歴史的建築物や洋風建築物、多くの寺院、前川國男氏による建物や新しい美術館など魅力的な建築物があり、建物好きには面白い街だと思います。

- ・これから弘前市役所を目指す人へ一言

市での建築技師の仕事は、設計や工事監理の仕事だけではなく、確認申請の審査や、各種許認可に関わる業務、耐震化などの支援事業に係る業務など、多岐にわたりますので、所属先によって様々な業務に携わることができます。

建築系の技師職は民間企業を経験してから入庁した人の割合も多く、バックボーンも様々です。これから転職で来られる方も馴染みやすい環境だと思います。